

# 医芸伴壇



虎落笛 (青森) 秋霧朝光

蝸牛葉かげに入りてうすみどり

ここみ食ふひとつのことを思い出す

温厚なふりして実は毒茸

みちのくや影法師きて水温む

縄文の人もどかしき虎落笛

(千葉) 秋葉琢磨

早春の波濤は光飲み込んで

大粒の母喰み居り南総に

同期会金目鯛喰み春の昼

再会の友等と花見待ちわびて

花見とは人と人との絆成る

(長野) 有泉七種

雛あられ添へてお昼の病児食

春雨に映えてあくるき蛇の目かな

難解の句碑などり読む春の昼

つくばいに浮きて全き山椿

れんぎょうに季節はつれの風雨かな

(浜松) 岩本漂人

クロアジサン口で息する熱砂かな

佐鳴湖四句

アリスイを待つ半日の日向はこ

描く輪の小さくなりてミサゴ消ゆ

掛け声に揃って沈むカイツブリ

羽干しのカワウ見て来て蒲団干す

(栃木) 川村章子

雪残る高原ホテル チェロを聞く夕

雪の前庭ガラス越しなるバードウォッチング

チェロの夕裾長ドレス降りる宵闇

寒夜のトイレ青いタオルが硬くなってる

湧水を汲む崖早春のドライブ

(東京) 小南丁字

百年のブラジル移民賀状読む

群集へチェンジ・オバマの響く春

風物の越冬白鳥一万羽

香の誘い野鳥の飛来寒桜

生かされている有難さ春爛漫

(東京) 堺雄子

長江の船旅

三峡の往時の景や春の夢

水嵩の増せる三峡東風強し

春の江舟引く綱の語り種

菜の花や流るる西陵ゆうらりと

春の江水門閉さし船沈む

(東京) 篠田那珈

妻の命日孫卒業と季移ろう

恋猫の悲痛な声に辟易す

雛祭る園児等の姿町報に

亡父賜ひし娘の雛も古びたり

卒業式用のスーツとして注文

(東京) 田村豊幸

春あらし古老を揺らし揺らし行く  
昨日今日なぜか亡き人夢ばかり  
鶯のかわりに梅に目白来る  
屋上の富士は真白今年また  
俳句詠む“気”だけ残つてまだ生きる

(新潟) 中村雄彦

初日の出額を射すを遠ざけず  
鯉を見る人を見てをり冬日和  
二日降り三日晴れして冬終わる  
子を抱いて大根下げて午後六時  
一つだけ秋灯点る診療所



福富 清子(東京)

(長野) 橋本勝彦

負けまいぞシングルマザー猫柳  
神の廊異教徒渡り風花す  
青空にボールけり上げ卒業す  
卒業歌天使とびゆけ雲越えて  
曾孫ひいまたと歌ひて泪風眩し

(東京) 西垣茂

この頃は小春日和のよく続き  
四、五句を手帳に連ね年を越す  
上水路覗けば落葉流れおり  
上水の流れる落葉見ていたり  
流れゆく落葉濡衣ぬれまぬ舞う如く

(東京) 初芝澄雄

白梅にふつと足止め里の道  
満開の梅の小枝に目白かな  
紅白の梅乱れ咲く庭奥  
アカシヤの黄色の花に歩を止める  
小ウッドノ葉は紅々と花は黄に

(兵庫) 廣辻逸郎

炉火育て古老の洪ききこりこ歌  
主の教え心にしむと冬月夜  
豆を撒く鬼であることかくしいて  
知らぬ女抱く夢に覚め春浅し  
梅白し読経の僧の赤や紫

(青森) 富士盛大

春塵や中古車販売旗なびく  
あぐらして砂の温もり春の波  
春眠の眠けを襲う電話かな  
快晴の午後の当直日永かな  
花冷の待合室や人氣なし

(東京) 福神規子

紅梅や淡島さまにお蠟番  
詰め合へる和服の膝や針供養  
立ち上がりさつな如来や木の芽吹く  
桜餅子規にもあはき恋ありと  
言問も吾妻も橋や花の雲

(東京) 福富 清子

寒梅や忌日にしのぶ兄の素志

開発の廃線跡や下萌ゆる

梅一輪古書肆あるじは定位置に

水琴窟青竹つたふ春の声

囀り一号二号三号我が目覚め

(東京) 初木 秀穂

八十年を澄まして若き雛かな

雛の間は人はをらねど灯しおく

花便り庭にひっそり木瓜の花

咲き満ちし花に吸ひ寄せられしかな

遠山はつすくれなぬに笑ひけり

(青森) 三上 忠英

芭蕉子規句を暗誦卒業す

白魚をするりと喉に哲母子者

木枯らしは丁母の声と思いきり

春雷やぴくりともせぬ池の鯉

男系や埃まみれの雛道具

(広島) 渡辺 晋山

桃色といふより紅き肥後の里

飯塚の首相の邑や雛祭

雛壇に異国の顔も並ひをり

若草や筑紫次郎に水とつとつ

バスツアー疲れたる目に臘月

## 次号(夏季)は美術展特集です 作品をカラーで紹介

7月2日(木)から5日(日)まで「医家美術展」が開かれます。先の冬季号と同じように、作品をカラーで紹介します。

同時に「私と絵画」「私の好きな作家」あるいは「一枚の絵」とか、絵画に限らず美術一般に係わるエッセーなどを募集しますので、今回の美術展に参加される方はもちろん、会員一般からも募集します。このほか、普段とおりの随想と俳句・短歌・川柳なども、それぞれ5句、5首をどうぞ。

**締め切り** 7月7日(火) 季刊になったので、締め切りが分かりにくいという声が寄せられます。そこで、今回は覚えやすいように七夕に合わせました。

**発行日** 編集に数日間、印刷会社の工程に2週間ほど、最近は週末の土日が休み。今回は「海の記念日」が入りますので、7月30日(土)になります。

# 医芸柳壇



大阪 池田 白染

われ老けたりどの会出ても老人会  
同窓会見渡し見れば古希の会  
幹事言つ孫と病氣は話すなど  
爺婆がチャントつけ名を呼ぶ同窓会  
Dカップ触つて笑つ同窓会

千葉 たれ 女め

取り敢えず洗濯日和は花見日和  
花見客みんな桜のおくりびと  
花の下ちよつとよいよな枝があり  
給付金なにを買おうか食べようか  
テポドンは鯨に乗って旅つッけ

東京 小南 丁字

氷河期のライチヨウ危ない温暖化  
西陛下笑顔の激務顧みよ  
と  
法王は“地動説”称えミサに論く  
大不況行動「角栄」懐かしむ  
靴を投げ逮捕靴辱喚く記者

東京 田村 豊幸

魚屋の真似で逃げきる鰈（加齢）医者  
美しい日本恥だらけ  
チヨコレート姫の名をかき舐めてみる  
恋の声遠慮もせず春の猫  
医家芸術百歳以上無料かな

群馬 豊泉 清

不況風花粉と黄砂も加担する  
葬送の話題で映画が蘇えり  
級や段無くても漢字は読めますよ  
閣僚は酩酊政局は低迷し  
救急車たらい回しする無医病院

東京 西垣 茂

女子駅伝負けたアンカーも抱えられ  
女子駅伝大柄アンカーもふつらふら  
除夜の鐘聞いて不況の年忘れ  
今年まだ不況の風吹きそつな  
大学は出ても会社は門を閉め

青森 三上 忠英

漢字読めぬ太郎を笑つ小学生  
給付金取らぬ狸の皮算用  
小沢氏が一転窮地に陥る  
テポドンの恐怖が日に日に募る  
侍ジャパンあつばれの一言に尽きる

おことわり

誌面制作の都合上、俳壇をはじめ柳壇  
や歌壇の頁順を変更することがありま  
す。ご容赦ください。